

今月は、五月に開かれた日本保育学会の発表から、お二人の先生に書いていただきました。東喜代雄先生からは昨年の「指導は必要か」に続き、「数量化は有効か」という興味深いテーマのシンポジウムの報告です。藤田博子先生には、ヨーロッパの絵画に描かれた幼児から、その時代の子どもの像を探るというテーマで、連載で書いていただきます。次回もお楽しみにお待ち下さい。

一か月程前のことです。道端で子雀を拾いました。このままにしておくに猫に狙われるだけと思い、家で育ててみることにしました。子ども達は大喜びで、どうすれば雀が飼えるのかいろいろ考えました。息子は鳥に詳しいおじいちゃんに電話をかけ、体温が39度より下がらないようにコタツをいれるといい、水は体がぬれると冷えるので巢の回りにはおかない、など注意をきいて早速あんかの用意をしました。動物はこわくて苦手の息子

ですが、この雀ちゃんは手の中に入れるとふわっとして暖かく気持ちのよい存在のようで、一生懸命世話をしています。

おじいちゃんの話では、目の荒いカゴに入れて外に出しておくに親がエサを運んで食べさせるといことなので、早速エサと一緒に外に出してやりました。しばらくすると鳴き声をききつけて親雀が飛んできました。遠くから見ていた私達も「あ、お母さんが食べさせている。よかったね」。道を通る御近所の人達も足を止めて、「やっぱり親だね、巢からはぐれてもエサを運ぶんだね」と心打たれた様子でした。

こんなことが三日間続き、子雀は衰弱して死んでしまいました。もちろん餌や水も与え続けましたが、親鳥が食べさせる程には充分ではなかったのでしょう。子ども達はウォーウォーと声をあげて泣きました。飛べなかった子雀は天に向かって飛んで行きました。息子はこのことを思いだすと、今でも涙ぐみます。

幼児の教育

第八十九巻 第十号
(一九九〇年十月号)

定価四一〇円(本体三九八円)

平成二年十月一日 発行

編集兼発行人 本田和子

発行所 日本幼稚園協会

東京都文京区大塚二一一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

印刷所 図書印刷株式会社

東京都港区三田五一一

発売所 株式会社 フレーベル館

東京都千代田区神田小川町三一

振替口座 東京九一一九六四〇

電話 〇三一二九二七七八一

●本誌購読のご注文は、発売所フレーベル館にお願いいたします。

●万一、落丁・乱丁などがございましたら、おとりかえいたします。